

令和 6 年度決算見込の概要



三木市 Miki City

目 次

- 1 一般会計の決算総括
- 2 一般会計の決算内訳
- 3 一般会計の主な取組
- 4 一般会計の市債残高と基金残高の推移
- 5 財政健全化指標
- 6 特別会計の決算
- 7 企業会計の決算

(参考 1) 北播磨総合医療センター企業団の決算

(参考 2) 財政健全化の取組 (令和 6 年度実績)

(参考 3) 財政健全化の取組 (中間評価)

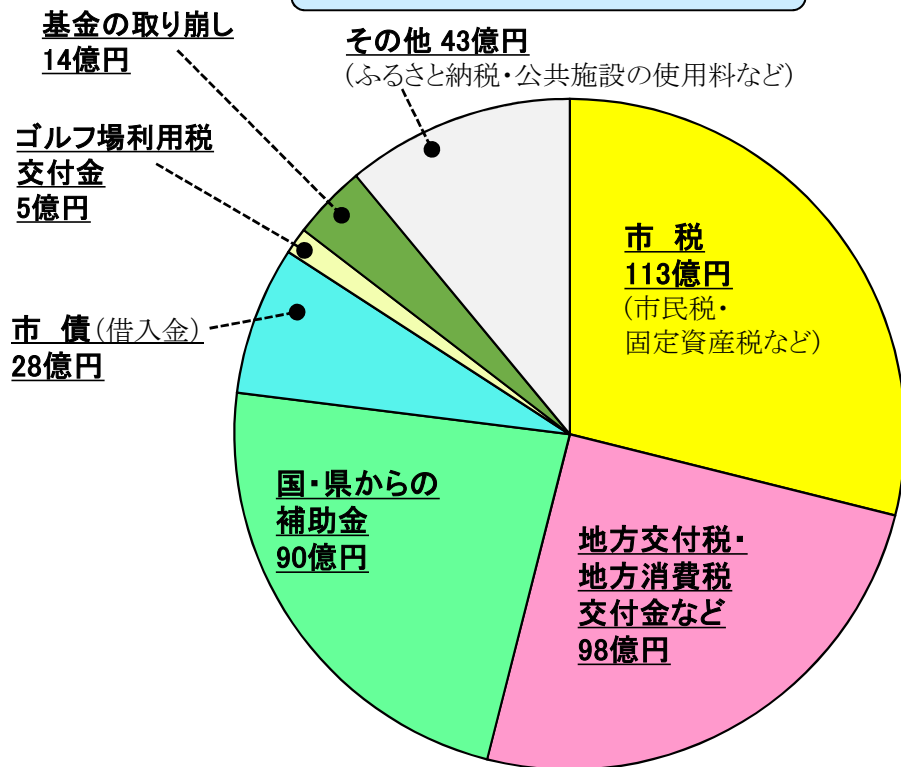
1 一般会計の決算総括

- 令和6年度の決算は、物価高騰の影響を大きく受けたものとなっており、子育て世帯や低所得者等への給付金の支給、高校生等の医療費の無償化などを実施し、収入・支出ともに過去2番目の規模となった。
- 人事院勧告に基づく給与改定や物価高騰により歳出が大きく増加し財源に不足が生じたため、財源補填のための基金10億円を取り崩した。
- 収入と支出の差引額は9億円で、翌年度へ繰り越す財源を差し引いた実質的な収支は約3.0億円の黒字となった。

区 分	令和6年度 決算見込額 A	令和5年度 決 算 額 B	増 減 額 (A－B)
収 入 額 ①	391億715万円	360億9,225万円	30億1,490万円
(うち基金繰入額)	(14.2億円)	(4.4億円)	(9.8億円)
支 出 額 ②	382億452万円	355億6,980万円	26億3,472万円
収支差引額 (①－②) ③	9億263万円	5億2,245万円	3億8,018万円
翌年度へ繰り越す財源 ④	6億452万円	8,141万円	5億2,311万円
実質収支額 (③－④) ⑤	2億9,810万円	4億4,104万円	△1億4,294万円

2 一般会計の決算内訳

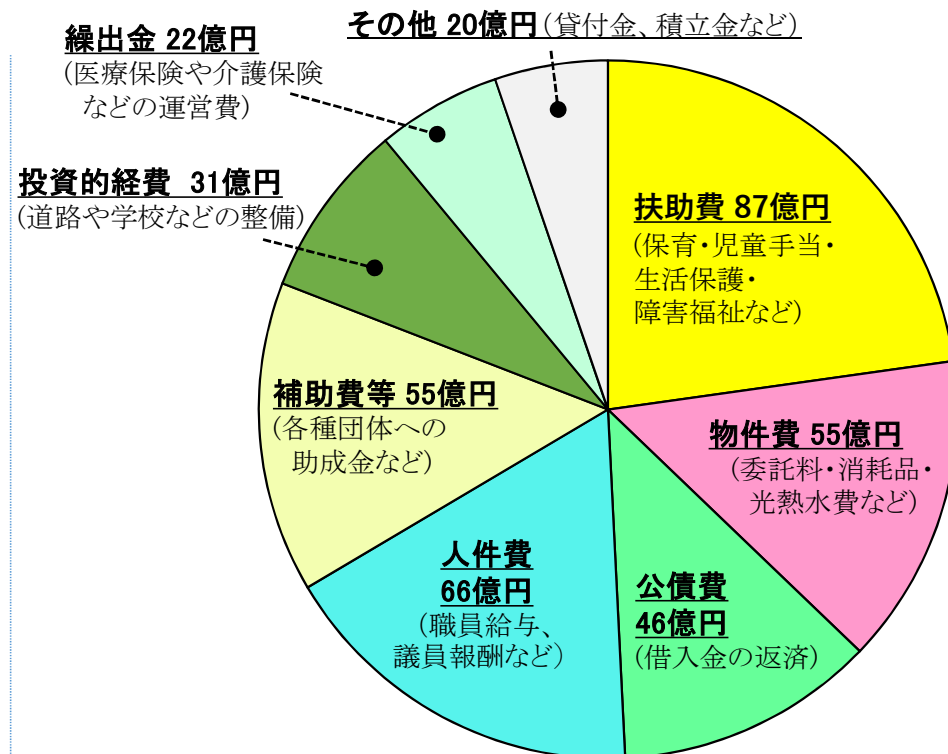
歳入（391億円）



決算の特徴

- 市税は、固定資産税が増加したものの、定額減税の実施等により前年度から1.8億円減少
- 寄付金は、ふるさと納税寄付金が企業版ふるさと納税の増加により前年度から8.9億円増加
- 繰入金は、収支不足を補うための財政基金の取り崩しなどを行い、前年度から9.8億円増加

歳出（382億円）

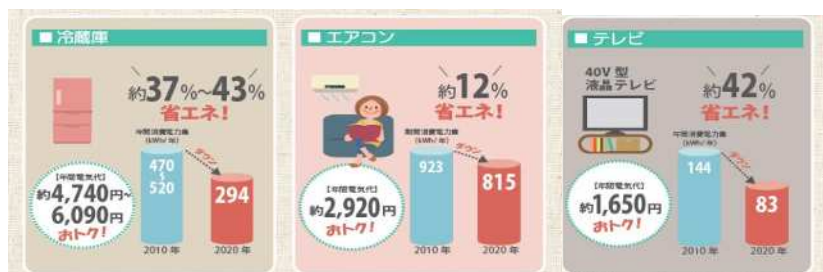


- 扶助費は、障害福祉サービス費の増加などにより、前年度から3.4億円増加
- 物件費は、物価高騰の影響や住民情報システム標準化事業などにより、前年度から3.6億円増加
- 普通建設事業費は、山田錦の郷整備事業や学校施設の改修等に係る事業費の増加により、前年度から8.1億円増加
- 人件費は、人事院勧告などにより前年度から5.9億円増加

3 一般会計の主な取組

○ 急激な物価高騰への対応

・省エネ家電への買い替えを促進（1,224万円）



・プレミアム付き商品券事業を支援（6,217万円）



・高校生等の通院医療費を無償化（3,972万円）

・小・中・特別支援学校の学校給食費の食材価格高騰分を支援（3,621万円）



・住民税非課税、均等割のみ課税世帯に給付金を支給（4億3,018万円）

・定額減税補足給付金を支給（6億1,097万円）

・民間保育施設等に対し、光熱費などの価格上昇分を支援（426万円）

3 一般会計の主な取組

○教育のまちの推進、三木ブランドの魅力向上、安心して暮らせるまちづくりに関する取組

- ・市制施行70周年記念事業を実施（3,318万円）



- ・次期GIGA端末をiPadへ更新（R6～7債務負担）

- ・全ての公民館にWi-Fi環境を整備（820万円）

- ・団地再生事業～青山7丁目団地再耕プロジェクトの推進～（1億5,000万円）※R7も継続



- ・道の駅よかわの整備を実施（3億2,573万円）

※R7も継続

- ・トカイナカ三木での新生活と移住を応援（1,695万円）

- ・みっきい☆シニア健康サポート事業を拡充（1,285万円）

- ・こどもサポートセンターを設置（371万円）

- ・町ぐるみ健診申込管理システムを導入（182万円）

- ・消防署吉川分署を移転、建替え（1億976万円）

※R7も継続



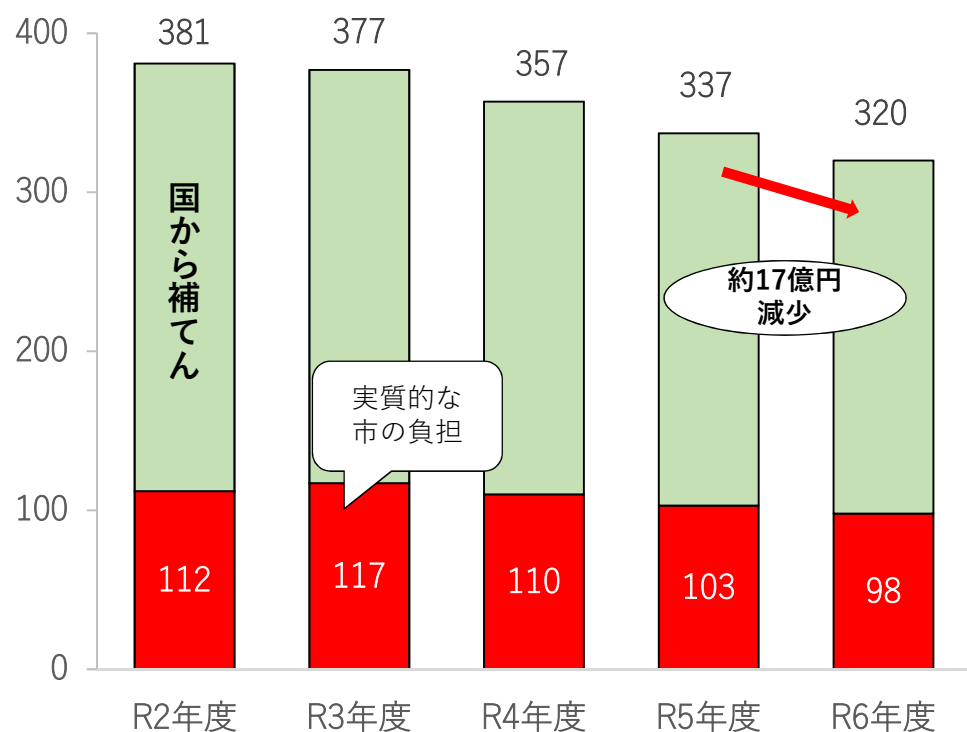
- ・防犯カメラの設置を推進（678万円）

- ・行政地図情報をデジタル化（4,966万円）

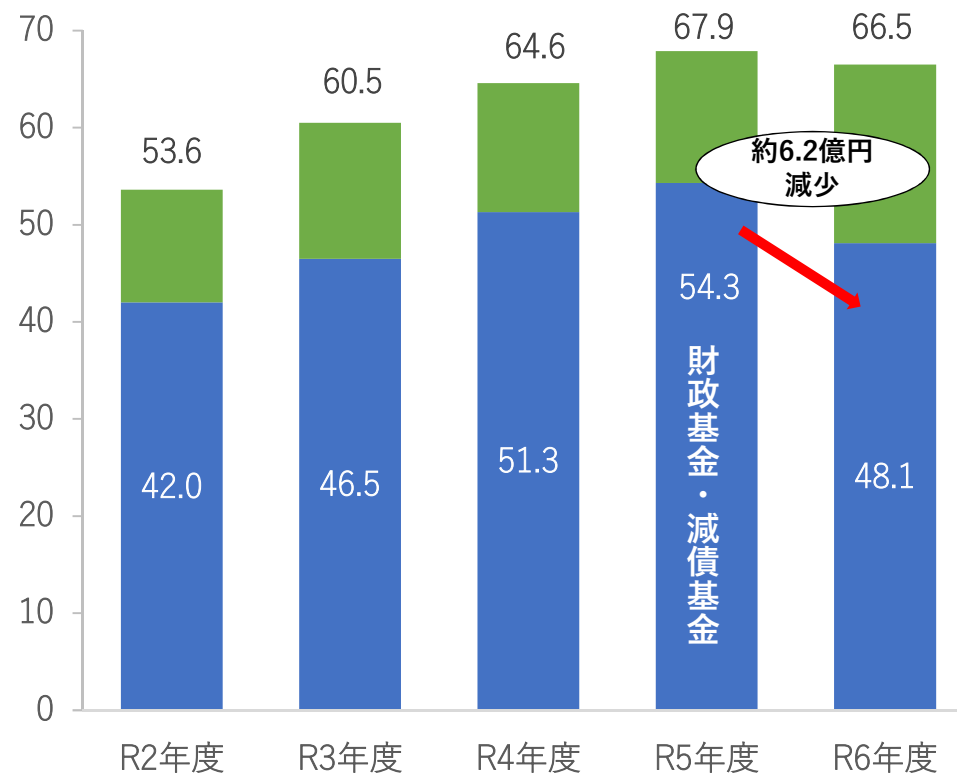
4 一般会計の市債残高と基金残高の推移

- 市債の残高は、国・県補助金の活用などで新たな市債の発行を抑制したことで、市債の発行額が過去に発行した市債の償還額を下回り、17億円減少して320億円となった。
- 基金の残高は、前年度決算剰余金の一部やふるさと納税寄附金など12.8億円を積み立てる一方、各種事業への活用や収支不足を補うため、財政基金や、減債基金、こころのふるさと三木応援基金などを合わせて14.2億円取り崩し、前年度と比較して1.4億円減少の66.5億円となった。

市債残高（単位：億円）



基金残高（単位：億円）



5 財政健全化指標

- 実質赤字比率・連結実質赤字比率は、黒字決算のため該当なし
- 実質公債費比率は7.1%で、前年度から0.7ポイント悪化
- 将来負担比率は15.6%で、前年度から1.5ポイント改善
- 経常収支比率は96.5%で、前年度から3.0ポイント悪化

(単位：%)

区 分	三 木 市			国の定める基準値	
	令和6年度 (A)	令和5年度 (B)	差 引 (A-B)	早期健全化 基準	財政再生 基準
実 質 赤 字 比 率	—	—	—	12.50	20.00
連 結 実 質 赤 字 比 率	—	—	—	17.50	30.00
実 質 公 債 費 比 率 (3 か 年 平 均)	7.1	6.4	+ 0.7	25.0	35.0
将 来 負 担 比 率	15.6	17.1	△ 1.5	350.0	
経 常 収 支 比 率	96.5	93.5	+3.0		

「—」は、黒字決算のため該当なし

6 特別会計の決算

- 特別会計は、全会計が黒字決算
- 国民健康保険特別会計は、「三木市国民健康保険財政健全化計画」に基づく取組を行った結果、2億円の黒字
- 介護保険特別会計は、介護報酬の増額改定及び要介護認定者数の増加に伴い、介護給付費が前年度より3.3億円増加したため、基金を0.4億円取り崩した結果、0.2億円の黒字

区 分	令和6年度決算					(参考) 令和5年度 実質収支額
	収 入 額 (A)	支 出 額 (B)	収支差引額 (C=A-B)	翌年度へ 繰り越す財源 (D)	実質収支額 (E=C-D)	
国 民 健 康 保 険	87億9,606万円	85億9,469万円	2億 137万円	0	2億 137万円	2億 963万円
介 護 保 険	79億3,582万円	79億1,405万円	2,177万円	0	2,177万円	2,397万円
後期高齢者医療事業	17億6,550万円	17億2,229万円	4,321万円	0	4,321万円	3,398万円
学 校 給 食 事 業	2億9,873万円	2億9,871万円	2万円	0	2万円	1万円

7 企業会計の決算

- 水道事業会計は、動力費などが増加したものの事業所等への給水量の増加による水道料金収入の増加により、当年度純損益は1.5億円の黒字
- 下水道事業会計は、事業用の汚水処理量増加により下水道使用料収入の増加となったが、委託料などの増加により、当年度純損益は前年度より0.1億円少ない0.8億円の黒字

区 分		令和 6 年度			(参考) 令和 5 年度 収 支 額
		収 入 額 (A)	支 出 額 (B)	収 支 額 (C=A-B)	
水道事業	収益的収支	17億2,588万円	15億7,598万円	1億4,990万円	1億6,146万円
	資本的収支	2億9,468万円	6億3,043万円	△ 3億3,575万円	△ 3億8,761万円
下水道事業	収益的収支	23億7,310万円	22億9,111万円	8,199万円	9,443万円
	資本的収支	15億6,041万円	21億 767万円	△5億4,726万円	△ 9億9,738万円

(金額は税抜き)

(参考 1) 北播磨総合医療センター企業団の決算

- 燃料費等の物価や人件費等の上昇に伴う経費の増加により、経常損益は8.9億円、純損益は9.0億円の赤字となった。
- 令和5年3月から看護師不足に伴い2病棟を閉鎖していた。看護師確保対策により令和6年3月から1病棟を再開したが、経常損益は6期連続の赤字となった。

区 分	令和 6年度 (A)	令和 5年度 (B)	増 減 (A-B)
病院事業収益	191.3億円	185.9億円	5.4億円
うち入院収益	114.4億円	108.3億円	6.1億円
うち外来収益	53.5億円	52.3億円	1.2億円
病院事業費用	200.3億円	191.6億円	8.7億円
うち給与費	89.8億円	83.5億円	6.3億円
うち材料費	60.2億円	57.9億円	2.3億円
経常損益	△8.9億円	△4.7億円	△4.2億円
純 損 益	△9.0億円	△5.7億円	△3.3億円

項 目		令和 6 年度 (A)	令和 5 年度 (B)	増 減 (A-B)
入院	患者数 (1日当たり)	317.2人	297.4人	19.8人
	平均単価	99,353円	99,435円	△82円
外来	患者数 (1日当たり)	1,030.2人	1,020.9人	9.3人
	平均単価	21,308円	21,099円	209円

(参考2) 財政健全化の取組（令和6年度実績）

- 「三木市財政健全化計画」（計画対象期間：令和4年度～令和8年度）に基づき、令和6年度の取組実績効果額は総額で5億9,211万円、計画と比較して3,997万円下回った。

	令和6年度の取組効果額		
	実績(A)	計画(B)	差引(A-B)
収入の確保	2億7,009万円	2億5,340万円	1,669万円
支出の削減	3億2,202万円	3億7,868万円	△5,666万円
計	5億9,211万円	6億3,208万円	△3,997万円

- 令和6年度は収入の確保及び支出の見直しを合わせて「49」の取組を実施。
（詳細は、本概要の附属書類「令和6年度 三木市財政健全化計画取組実績報告書」を参照）

	主な取組内容	取組効果額
収入の確保	公共施設の再配置(統廃合)による跡地等の売却	1億3,455万円
	市税の徴収率の向上	6,579万円
支出の削減	一般会計から国民健康保険特別会計への赤字補填のための繰出金の廃止	1億9,449万円
	市民福祉年金の廃止	5,645万円

「取組効果額」は、財政健全化の取組前（令和3年度決算）との比較による。

(参考 3) 財政健全化の取組 (中間評価)

- 令和4年度～令和6年度の3か年の取組実績効果額の累計は14億8,966万円となり、計画と比較して6,048万円上回った。財政健全化計画の3か年の実績としては、概ね計画通り。

		各年度の取組効果額			令和4年度～ 令和6年度の累計
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
収 入 の 確 保	実績(A)	2億5,657万円	1億1,755万円	2億7,009万円	6億4,422万円
	計画(B)	1億4,200万円	3億 340万円	2億5,340万円	6億9,880万円
	差引(A-B)	1億1,457万円	△1億8,585万円	1,669万円	△ 5,458万円
支 出 の 削 減	実績(A)	2億3,263万円	2億9,080万円	3億2,202万円	8億4,544万円
	計画(B)	4,943万円	3億 228万円	3億7,868万円	7億3,038万円
	差引(A-B)	1億8,320万円	△ 1,148万円	△ 5,666万円	1億1,506万円
計	実績(A)	4億8,920万円	4億 835万円	5億9,211万円	14億8,966万円
	計画(B)	1億9,143万円	6億 568万円	6億3,208万円	14億2,918万円
	差引(A-B)	2億9,777万円	△1億9,733万円	△ 3,997万円	6,048万円

- 財政健全化方針で定めた「令和8年度までに収支の赤字補填のための財政基金の取崩しゼロ」という目標は令和6年度においては未達成。令和6年度のように、税収等の歳入の増加額が、急激な物価高騰や人件費の上昇等による歳出の増加額を吸収しきれない状況が続けば、数年のうちには同基金が枯渇することから、次期財政健全化計画を今後策定する。

- 令和4年度及び令和5年度においては、本取組効果に合わせて、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金及び物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金等の活用や地方交付税の増額による歳入の増額が歳出の増額を上回っていた。
- 令和6年度には、人件費や物価の急騰等による歳出の増額が歳入の増額を超過する傾向を見せ始めた。
- 今後は、次期ごみ処理施設や中央公民館等複合施設、施設一体型小中一貫校等の大型事業の整備が本格化することにより、歳出が歳入を大きく上回り、基金の減少が急速に進むことが見込まれる。